



戦前から戦後の人々の暮らしを感じる体験型ミュージアム

北九州市 Kitakyushu City Museum of Peace

平和のまちミュージアム

はじめに

みなさんは、今から約75年以上前、日本で戦争があったことを知っていますか？

今あなたがいるこの場所には、かつて兵器工場があり、原子爆弾げん し ばくだんの投下目標でした。

わたしたちが暮らしている北九州市でも戦争によって大変悲しい思いをした方がたくさんいます。わたしたちが生まれるよりずっと昔のできごとですが、決して忘れてはいけません。

平和のまちミュージアムでの見学と、この本を通して、いっしょに戦争の悲惨ひ さんさや、平和と命の大切さについて考えていきましょう。

ナビゲーターの紹介しょうかい

今回の主人公は2222年の未来からやってきたTOMOAKI、小学6年生。

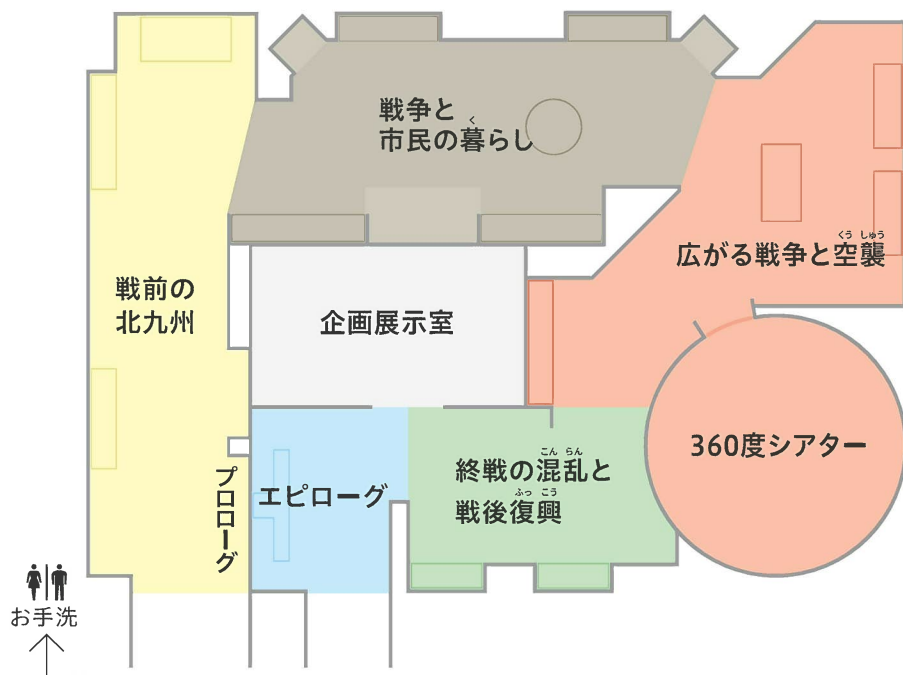
夏休みの自由研究の宿題をこなすため過去かにタイムスリップ！ 戦前・戦中・戦後に生きた知子とも こさんに当時のことをいろいろと教えてもらう…。

ともあき
TOMOAKI

とも こ
知子さん



北九州市平和のまちミュージアムを見学しよう



プロローグ

- ・ミュージアムが建つこの場所について考えてみましょう。
- ・原子爆弾と小倉のかかわりを学びましょう。

戦前の北九州

- ・5市の特色と、戦前の北九州の暮らしを見てみましょう。
- ・小倉陸軍造兵廠について学びましょう。

戦争と市民の暮らし

- ・戦時中の市民の暮らしについて学びましょう。
- ・当時を知る人の体験談に触れましょう。

広がる戦争と空襲

- ・八幡大空襲をはじめとした北九州地域の空襲について学びましょう。

360度シアター 運命の昭和20年 8月8日・9日

- ・八幡大空襲と、原子爆弾を載せたB29が小倉の上空に来たあと、長崎に向かった出来事を追体験しましょう。

終戦の混乱と戦後復興

エピソード

- ・復興へと歩みだし、北九州市が誕生するまでを学びましょう。
- ・「平和の樹」の葉っぱに自分の思いを書きましょう。

も く じ



- 北九州市はどんなまちだったのかな …………… 1
- 1 戦時中の暮らし …………… 7
- 2 人々と空襲 …………… 13
- 3 原子爆弾の投下 …………… 17
- 4 終戦と復興 …………… 19
- 5 これからの北九州市 …………… 22
- 地域の歴史を勉強してみよう …………… 24
- おわりに



北九州市はどんなまちだったのかな

めあて

明治から昭和の初め頃にかけての北九州地域は、どのようにして発展していったのか調べよう。

明治時代の北九州地方

約260年続いた江戸時代が終わり、
1868年に明治政府が誕生しました。

明治政府は近代的な国家を目指すため、さまざまな政策を行いました。

まずは、わたしたちが暮らしている
北九州市が、どのような歴史を歩んで
いったのか見ていきましょう。

ともこ
知子さん

明治政府はどんな政策をしたの？

明治政府は「富国強兵」というスローガンを掲げました。この言葉は経済の発展と軍勢力を強化することによって近代的な国にしていくという意味です。

それでは、具体的にはどのようなことを行ったのか見てみましょう。

- ・学制…満6歳になった男女を学校に通わせました。
- ・徴兵制…20歳以上の男子すべてに兵役の義務を定めました。
- ・殖産興業…工場を建てたり、交通や通信、銀行を整備しました。

政府は軍勢力を強化するため、明治8(1875)年に小倉に陸軍の歩兵第14連隊、明治31(1898)年に大規模な第12師団を配置しました。歩兵第14連隊は西南戦争や日清・日露戦争にも従軍しました。

小倉のまちは軍関係の病院や兵士たちが生活するための建物の建設が進み、工事関係者で賑わい、門司港は日清戦争、日露戦争の戦場に向かう兵士たちや軍需品を送り出す重要な港として発展していきました。

明治32(1899)年、政府は北九州地域を下関要塞地帯に指定しました。これは、船が多く通る関門海峡や周防灘を外国から守るためのもので、響灘沿岸や門司・小倉の山に多くの砲台を置きました。砲台の位置などを知られないようにするため、北九州地域では軍の許可がないと写真を残せませんでした。

また、明治政府はこれまでの藩にかわって、各地に府県を置きました。このときに北九州地域は小倉県と福岡県に分けられました。

明治9(1876)年に小倉県と福岡県は合併し、新たに「福岡県」となり、このあと、門司市、小倉市、若松市、八幡市、戸畑市の5市が誕生しました。5市はそれぞれに特徴をもって発展していきます。



5つの市の特徴

- ・門司市…貿易港や九州鉄道の起点となるなど交通の要でした。
- ・小倉市…商業や北九州地域の行政の中心でした。
- ・若松市…石炭などの輸出港でした。
- ・八幡市…官営の製鉄所があり、日本の工業を支えました。
- ・戸畑市…製鉄関連の工場や遠洋漁業の基地がありました。

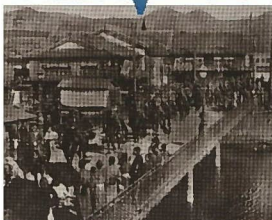


門司市



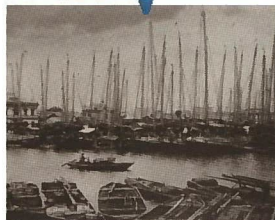
門司港第一船溜り(明治43年)

小倉市



常盤橋(明治39年)

若松市



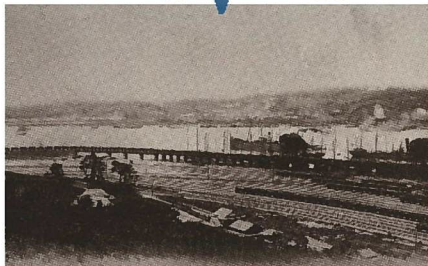
若松港と海岸通り(大正6年)

八幡市



八幡市役所(大正～昭和初期)

戸畑市



牧山海岸(大正中期)



トピックス

かんえいせいてつしょ 官営製鐵所(八幡)

明治34(1901)年に、官営製鐵所が八幡に誕生しました。当時としては最新の設備を備え、日本の重工業を支えました。

平成27(2015)年には関連施設が世界遺産に登録されています。



かんえいせいてつしょ ほんし じふ
官営製鐵所(八幡)本事務所



トピックス

水道のはじまり

北九州の水道は、明治44(1911)年に門司市で給水が始まってから100年以上の歴史があります。

門司市は外国との貿易で発展したのですが、毎年夏になると「コレラ」というおそろしい伝染病が流行していました。また、当時の暮らしで使う水といえば井戸水でしたが、これも約70%が飲むことに適していない水でした。

そこで、市民の健康を守るため、安全な水を確保することを目的に貯水池や浄水場が整備され、安全な水が多くの人々に届けられるようになったのです。



トピックス

きゅうしゅうでん き き どう 九州電気軌道

かつて北九州にも路面電車が走っていました。

明治44(1911)年に開業した九州電気軌道は「九軌」と呼ばれ、門司から八幡(折尾)、小倉から戸畑を結び、平成12(2000)年に廃止されるまで通勤や通学など市民の足として活躍しました。(「九軌」は昭和17(1942)年西日本鉄道となりました。)

ち い き
北九州地域には、当時から最先端の
ぎ じゅつ
技術がたくさんあったんだね。



ともあき
TOMOAKI

ゆた 豊かになっていく人々の暮らし

大正時代になると、外国との交流が進み、人々の暮らしに洋風のもものが取り入れられるようになりました。

カレーライス、コロッケ、ビールなどの食文化が広まり、女学生の制服としてセーラー服が着られるようになったのもこの頃です。

そして、暮らしが豊かになると、新聞、雑誌、ラジオ、映画など多くの娯楽が生まれました。特に、北九州地域には17館もの映画館があり、人々を楽しませました。

また、百貨店（デパート）も登場し、お出かけスポットとして人気を集めました。

右上の写真は、現在も小倉にある井筒屋百貨店の昭和14（1939）年頃の写真です。



セーラー服が広まる

大正時代は近代化が進んだとはいえ、女性は和服を着る人の方が多かった時代でした。

しかし、ある女学校で制服としてセーラー服が採用されると、その動きやすさとデザインのよさから全国に広まっていったのです。

小倉高等学校（現 福岡県立小倉西高等学校）のセーラー服



トピックス 新聞の普及

新聞が広く広まったのは大正時代です。

新聞は報道の早さと娯楽性から多くの人に親しまれていきました。

図書館などで当時の新聞を読んでみて、
今の新聞とくらべてみよう。



小倉陸軍造兵廠の誕生

この頃、軍隊は全国に兵器工場を持っており、陸軍は戦車や機関銃を、海軍は軍艦などをそれぞれ製造していました。これらの工場は「工廠」と呼ばれていました。



工廠はどこにあったの？

- ・陸軍の工廠…東京、名古屋（愛知県）、大阪
- ・海軍の工廠…横須賀（神奈川県）、佐世保（長崎県）、呉（広島県） など

大正12(1923)年に関東大震災が発生すると東京の工廠は大きな被害を受け、政府は移転先を探し始めました。そこで小倉市は工廠の誘致(※1)活動を熱心に進め、昭和8(1933)年に小倉工廠が開設されたのです。

(※1)誘致…招くこと。



なぜ工廠の誘致をしたの？

工廠は地域の経済の発展に大きくかかわるため、熱心に誘致活動が行われたのです。

小倉に移転が決まったことを知らせる新聞には「遂にこの吉報(※2)」と掲載され、小倉工廠の開設は歓迎されました。

(※2)吉報…おめでたい知らせ。



小倉工廠正門と事務所



小倉工廠の退勤風景

小倉工廠は現在の北九州市役所から木町(小倉北区)まで広がる西日本最大級の工場でした。東京の工廠から移ってきた人と兵器の生産によって小倉のまちは賑わい、工廠では小型戦車や砲弾などが製造されました。

昭和15(1940)年に「小倉陸軍造兵廠」と名前が変わり、さらなる兵器の増産が進められました。

その後、太平洋戦争が始まると小倉陸軍造兵廠では風船爆弾も作られるようになりました。



風船爆弾ってなに？

爆弾付きの気球のことを風船爆弾といいます。

日本は、この爆弾をアメリカに向かって飛ばして攻撃をしました。

気球の部分は、和紙をコンニャクのり(コンニャクいもから作られたのりのこと)で貼り合わせて作られました。



まとめ

工業の発展などにより、北九州地域は豊かになっていきました。

●今のわたしたちの生活との共通点を探して書きましょう。



1 戦時中の暮らし

めあて

戦時中、人々はどのような暮らしをしていたのか調べよう。

第一次世界大戦〈大正3～7(1914～1918)年〉において、戦車や飛行機など新しい兵器による悲惨な状況を目の当たりにして、いったんは国際平和に向けた取り組みが世界的に進みましたが、昭和12(1937)年に日中戦争、昭和16(1941)年には太平洋戦争が始まりました。

戦時中の人々の暮らし

男性には「臨時召集令状」というもの
が届けられ、これを受け取った人は軍隊
に入らなければなりません。

戦争が始まると人々の暮らしは
大変きびしくなっていました。
どのように変わっていったのかを
見ていきましょう。



臨時召集令状が届いた

臨時召集令状は赤い色をしていたことから「赤紙」
とも呼ばれます。

これを受けとった男性が軍隊に入ることを「出征」
といいます。



出征した男性に変わって、女性には地域を守るリーダーとしての役割が求められるよう
になりました。これを「銃後(※3)の護り」といいます。

地域ごとに女性たちで組織された「大日本国防婦人会」が結成され、出征していく男
性の見送りや、戦争によって亡くなった兵士の遺骨の出迎えなどを行いました。

(※3) 銃後…直接戦闘には加わらないが、出征兵士をさまざまに支えた国内・国民のこと。



戦争とともにみんなの暮らしが
変わっていったんだね。

多くの男性が戦地に向かったため、農村などでは働く人が減り、食べ物不足が始まりました。食べ物だけではなく、衣服や燃料なども足りなくなり、「配給制度」という方法がとられるようになります。



配給制度ってなに？

指定された場所に配給切符や通帳をもっていけば生活に必要なものを購入することができました。

しかし、購入することができる量はあらかじめ決められており、人々はがまんを強いられました。



配給切符を入れる袋

人々は食べ物不足を補うため、校庭や河原を耕し作物を育てることもありました。さらに、兵器を作るために金属が必要だったのでお寺の鐘や、家の鍋や金などといったものまで回収されていきました。そこで「代用品」が登場します。



代用品ってどんなもの？

金属が回収されたため、陶器で作られた「代用品」が登場します。

右の写真は陶器で作られた湯たんぽです。

湯たんぽとは、中にお湯を入れて体を温めるために使う道具です。もともとは金属で作られていましたが、戦時中は陶器製のものが現れました。

このほかにもアイロンなどさまざまなものが陶器で作られました。当時の生活の工夫が見えてきます。



標語「欲しがりません 勝つまでは!」

人々の戦争への意識を高めるために、いろいろな標語が作られました。

- ・「ぜいたくは敵だ」
- ・「欲しがりません 勝つまでは」

戦争が長引くにつれて、食べ物をはじめいろいろなものが足りなくなりましたが、それをみんなでがまんしようという意味です。

- ・「撃ちてし止まむ(うちてしやまん)」

これは、敵を倒すまで戦いをやめないという意味です。これらの標語はお店のポスターや看板に用いられ、まちの中でも多く見られるようになりました。

また、疎開^{そかい}といって空襲^{くうしゅう}による被害^{ひがい}から逃れる^{のが}ため、都市部^{いなか}から田舎^{うつつ}へ移ったり、建物疎開^{そかい}といって空襲^{くうしゅう}による火事^{ふせ}が広がることを防ぐために家を壊したりしていました。

戦時中は着るものも変化していきます。昭和15(1940)年に国民服令が出されると、男性^{だんせい}はカーキ色の国民服^{くんにんふく}、女性^{じょせい}は動きやすいようにもんぺ^{もんぺ}が推奨^{すいしょう}されました。

また、「華^{はな}やかなお化粧^{けしょう}やパーマメントはぜいたくだ」と非難^{ひなん}され、おしゃれをすることも制限^{せいげん}されていきました。



戦時中の服装^{ふくそう}



国民服



もんぺ姿^{すがた}



もんぺ

戦争と子どもたち

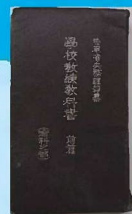
戦時中、子どもたちは「少国民^{せうこくみん}」とよばれ、強い日本をつくる大人になるため、とても厳しい教育^{きび}を受けました。教科書^{きょうこしょ}には軍艦^{くんかん}や戦闘機^{せんとうき}が登場し、戦意^{せんい}を高めるような授業^{じゅぎょう}が行われました。



授業を受ける^{じゅぎょう}

学校では男子^{しやうどう}は柔道^{けんどう}や剣道^{かんどう}、女子^{かんこ}はなぎなたや看護^{しやげき}などの訓練^{くんれん}がありました。

また、学校教練^{がくこくせん}といって現役^{げんえき}の軍人^{はいぞく}が学校に配属^{しやげき}され、射撃^{しやげき}などの訓練^{くんれん}を行いました。



教練の教科書

そして、戦争が長引いてくると、当時の政府は「学生たちも働くように」という命令を出しました。これを「学徒勤労動員」といいます。



農作業をする

現在の小学生くらいの子どもたちは農家の稲刈りの手伝いをしたり、肥料に使うための落ち葉を集めたり、作物を植えるなどの作業を行いました。



肥料を運んでいる様子



兵器をつくる

中学生や女学生は工場で兵器を作る仕事を任されることもありました。

不衛生な環境で長時間働かされたので病気になったり、危険な作業により大けがを負ったりすることもありました。



砲弾を作っている様子

● × モ

さい
当時16歳の方の
体験談

造兵廠ぞうへいしやう近くの城野りやう しゆくほくの寮に宿泊して広い部屋にびっしり布団ふとんを

平成28年発行 北九州市総務局総務課「後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験」より抜粋

●上の体験談を読んで、感想を書きましょう。

A cartoon illustration of a person's head with dark hair tied back, looking down at the writing area. The face is partially cut off by the right edge of the page. There are four horizontal dashed lines across the page for handwriting practice.

戦時中の人々の暮らしについてクイズに挑戦してみてください。
当時のことを思いながらみんなで考えてみましょう。



第1問

出征する男性には「千人針」というお守りが渡されました。

これは女性たちが布にひと針ずつ赤い玉を結んで作ったものです。

千人針にはどのような願いが込められていたのでしょうか？ 展示を見て考えてね。



千人針

答え

第2問

「銃後」という言葉の意味は何ですか？

答え

第3問

食べ物が足りなくなったため、人々はカボチャやサツマイモをある場所で育てていました。それらはもともと畑ではないところを耕して栽培していましたが、どこを耕したのでしょうか？

答え

まとめ

戦時中は、子どもたちも大変不自由な生活をしていました。

●あなたの今の生活とくらべて思ったことを書いてみましょう。

2 人々と空襲

めあて

「空襲」がある生活の中で、人々はどうのように暮らしていたのか調べよう。

太平洋戦争が始まり、日本は当初、優位に戦争を進めていましたが、徐々にアメリカが攻勢に転じ、日本は不利になっていきました。

昭和19(1944)年、日本本土で初めてアメリカの爆撃機「B29^(※4)」が北九州地域を襲いました。このB29はアメリカが中国大陸に建設した飛行場から飛び立っており、それ以降、北九州地域はたびたび空襲にあいました。

その後、サイパン島などがアメリカに奪われると、日本全土への空襲が可能になり、より多くの人々の暮らしが危険にさらされました。

(※4) B29・・・長さ約30m、幅約43mの大型爆撃機。爆弾を最大約9トン載せて飛行できる。

空襲への備え

ここからは当時の人々が
どのようにして空襲に備えたのか
を見ていきましょう。



太平洋戦争が始まる前の昭和6(1931)年には「防空演習」といって空襲に備える訓練が北九州地域全体で行われました。

各家庭では空襲に備えて防空頭巾や火を消すための防火バケツを準備し、家の庭や畳の下、校庭などに避難するための防空壕を作りました。

防空頭巾ってなに？

空襲で避難するときに飛んでくる破片などから頭を守るために防空頭巾をかぶりました。頭巾は古くなった着物などの布地を縫い合わせ、中に綿を入れて作られました。



日本はB29の空襲に対して、高射砲^(※5)による砲撃や、戦闘機による応戦をしました。また防空気球^(※6)をあげるなども試みたのですが、空襲を防ぐことはなかなかできませんでした。

昭和20(1945)年に入ると、空襲の目標が工場から住宅地域へと変わり、木造建築物が燃えやすい焼夷弾が投下されるようになりました。

(※5)高射砲…侵入してくる敵の飛行機を攻撃する大砲。

(※6)防空気球…飛行機による低空からの攻撃を防ぐための気球。



焼夷弾ってなに？

B29が投下した爆弾のことです。

焼夷弾の中には燃えやすいゼリー状のガソリンなどが入っており、地面に落ちると激しい勢いで燃え、まちを焼きつくしたのです。



花尾国民学校(現 北九州市立花尾中学校)に落ちた焼夷弾

空襲は、いつ来るか分かりません。そのため、人々はいつでも避難ができる服装で寝ていました。

また、夜に屋内から明かりが漏れるのを防ぐため、灯火管制も行われました。



避難のときの服装

避難するときは、防空頭巾をかぶり、食べ物など大切なものをもっていきました。

また、白い服は目立ち、空襲の目標にされやすいため黒っぽい色の服を着ていました。



灯火管制ってなに？

夜に屋内の明かりが外に漏れて、空襲の目標にされるのを防ぐため、照明に右の写真のようなカバーを被せました。

少しでも明かりが外に漏れていたら、近所の人から厳しく注意されたといいます。



ここまで人々の空襲への備えなどを見てきたよね。
それでは、実際にB29が飛んでくると人々はどのように避難して
いったのかな。下の図をたどりながら見てみよう。



①B29が飛んでくると、ラジオは放送を中断し、「警戒警報」のサイレンを流します。



②人々は大切なものや食べ物、水を持って防空壕に避難します。



③B29が近付くと、「空襲警報」となり、短い間隔で断続するサイレンが流されます。警報が解除されるまで防空壕の中で待ちます。



昭和19(1944)年の八幡の空襲



空襲によって焼けたまち

昭和20(1945)年、8月8日の朝、約200機のB29が八幡上空に現れ、焼夷弾や爆弾を投下しました。八幡は大きな被害を受け、約2,500人も死傷者が出ました。

この戦争による北九州地域全体の空襲被害は、死傷者約3,500人以上、家を焼かれるなどした人は約8万人といわれています。



実際に北九州地域で空襲を体験された方のお話を読んでみましょう。

空襲を体験した市民の方のお話

当時7歳の方の体験談

爆弾の凄い光と火の粉が降りかかってきます。顔を両手で覆いわたしは動けません。母が張り裂けるような声で「止まってはだめ、早く逃げるの、走るの、殺される。」母は物凄い鬼のような顔で腕を引っ張りましたがわたしは動けません。あまりのショックで体が石のようになっていました。

当時9歳の方の体験談

またたく間に、辺り一面火の海になってゆきます。もう怖くて怖くて立ちすくんでと父親の「防空壕に入れ、急げ!」その声に家族全員窓から飛び出し裏山に掘ってあった防空壕へと駆け込みました。

当時14歳の方の体験談

外に出てわたしが目にしたのは、辺り一面が白煙と黒煙に覆われ、その間から炎が立ち上がり、今までに見たこともない光景、呆然として何がどうなっているのか、あの時のことは、今もお脳裏から離れることはありません。

平成28年発行 北九州市総務局総務課『後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験』より抜粋

まとめ

当時の人々は、空襲ととなり合わせの苦しい環境の中で
日々を過ごしていました。

- もし、あなたが同じような暮らしをしていたらどのようなことを思うでしょうか。
想像して書いてみましょう。

3 原子爆弾の投下

めあて

原子爆弾が人々に与えた影響について調べよう。

昭和20(1945)年8月6日に広島に原子爆弾が投下され、その3日後には長崎にも投下されました。

長崎に投下された原子爆弾は、当初小倉に落とされる計画だったのです。

小倉が投下の第1目標だった理由

- 兵器を作るための造兵廠などがあり、重要な都市だったため。
- 空襲の被害を受けていないところへ投下し、原子爆弾が与える影響を見るため。

アメリカ軍が撮影した小倉上空の写真



8月9日、原子爆弾を搭載したB29が、小倉上空に達した時、その空は前日の八幡の空襲(15ページ参照)の煙の影響により視界がよくありませんでした。そのため、アメリカ軍は小倉への投下をあきらめ、第2の目標であった長崎に向かいました。

長崎に投下された原子爆弾は、11時02分、長崎市の北部、地上から約500mのところでさく裂したのです。

長崎では、この原子爆弾で、約7万4,000人の死者が出ました。

原子爆弾ってどのようなものなんだろう？



長崎に投下された原子爆弾「ファットマン」

まるみをおびたその形から「ファット(太った)マン」と名付けられました。

長さは3.25メートル、直径1.52メートル、重さは4.5トンもありました。(広島に投下された原子爆弾は「リトルボーイ」といわれ、長さは約3メートルでした。)



原子爆弾による被害

原子爆弾がさく裂すると、想像もできないくらいの熱さと激しい爆風によって一瞬のうちに多くの人々の命が失われ、まちも姿を変えてしまいます。

また、はじめのうちは軽傷と思われていた人も原子爆弾から出される放射線の影響で亡くなることもありました。

原子爆弾投下から75年以上たった今でもこの影響によって苦しんでいる人がいます。



原子爆弾の衝撃波、
爆風を赤色で表した図
藤田哲也博士 作成

長崎への原子爆弾投下のあと、その威力や爆心地を特定するために調査団が派遣されました。小倉出身の気象学者・藤田哲也博士もその調査団のひとりとして活動しました。上の被害図は藤田博士が作成したものです。



トピックス 藤田哲也 博士

長崎の原子爆弾投下後の貴重な写真と被害図をのこした藤田博士は、竜巻研究の第一人者としても知られています。

昭和46(1971)年には、竜巻の強さの規模を表す「F(フジタ)スケール」を発表しました。



原子爆弾により、広島・長崎では都市が壊滅し、多くの人々の命が奪われました。

● 原子爆弾によって多くの方が亡くなりました。

このことについて、あなたが思ったことを書いてみよう。



4 終戦と復興

めあて

戦後の人々の暮らしがどのようなものだったのかについて調べよう。

昭和20(1945)年8月15日、戦争が終わりました。

人々は、空襲におびえることはなくなりましたが、食べ物や生活に必要なものが足りないなど、苦しい生活は続きました。

5市の復興

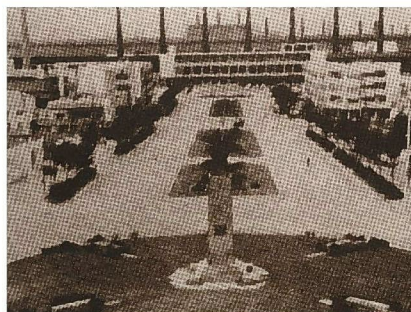
戦争が終わり、復興のために石炭の産出や、鉄の生産に力が入られるようになりました。

これらを生産する土台を持っていた北九州地域は、復興へと歩みはじめました。

そして、特に空襲による被害が大きかった門司市、若松市、八幡市は政府から戦災復興

都市に指定されたことで街路や公園が整備され、公共施設が置かれるなど新しいまちに生まれ変わっていきました。

また、昭和33(1958)年に関門国道トンネルが開通し、昭和34(1959)年には、かつて小倉陸軍造兵廠があった場所に留まっていたアメリカ軍が撤収し、その跡地は勝山公園になりました。昭和37(1962)年には若戸大橋が開通するなど交通の整備が進みました。



整備された八幡駅前

トピックス 戦後の企業の取り組み

戦後、九州最大の水産加工基地だったニッスイは、遠洋漁業を再開し、昭和27(1952)年、洋風化する食事に対応するために魚肉ソーセージを開発しました。

また、昭和30(1955)年頃、住宅不足を解消するために集合住宅の建築が進められ、それに伴って東洋陶器(TOTO)では腰掛式水洗便器などの衛生設備機器の生産が増えました。

戦後、人々はどのように生活していたのか、体験談を読んでみよう。



戦後の子どもたちの暮らしの体験談

終戦時11歳の方の体験談

学校も焼かれ青空教室といって外で勉強したものです。食べ物も満足になく、いつも空腹で学校から帰ると身体を横たえて我慢したものでした。進駐してきたアメリカ兵が、走るトラックの上からチューイングガムをまくので子どもたちは群がったものでした。

終戦時9歳の方の体験談

わたしは弟をおんぶして兄と山や川に食べ物を探しに行き、イナゴを焼いて食べたり、沈没船の中にあった腐ったお米をもらって食べたりしました。

終戦時6歳の方の体験談

まだ給食がない頃ですが、アメリカからといって脱脂粉乳(粉ミルク)が1人に御玉杓子で1杯配られました。脱脂粉乳(粉ミルク)に、ワラなどが混じっていましたが、舌で口の中に入ると甘くて美味しくて、1,2回口の中に入れて、残りを妹に持って帰りました。

平成28年発行 北九州市総務局総務課『後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験』より抜粋

●上の体験談を読んで感想を書いてみよう。



北九州市の誕生

主なエネルギーが石炭から石油へと変わっていったため、石炭の積み出し港を抱えていた北九州地域の工業生産額は減少していきました。この状況に危機感が強まり、「5市が力を合わせて地域開発を行う」

という考えが広まっていき、昭和35(1960)年に北九州地域の現状を紹介し、5市の合併を進めるために「伸びゆく北九州小倉大博覧会」が開催されたのです。

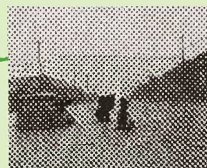
そして、昭和38(1963)年2月10日に北九州市が誕生しました。



北九州市開庁式

トピックス 北九州大水害

昭和28(1953)年6月25日から29日にかけて、北九州地域を集中豪雨が襲い、死者行方不明者あわせて183名となる大水害がおこりました。



洪水のようす

この水害を教訓に、災害に強いまちを目指して整備が進められました。

トピックス 環境問題

まちが発展していく一方で、工場から出される煙や排水が環境を汚し、人への健康に害があることが問題になってきました。北九州市でも公害は深刻な問題でした。工場から出された煙



工場から出された煙

そこで、戸畑の婦人会が「青空が欲しい」をスローガンに、企業や行政に環境を改善するよう求める活動を行いました。

そして、市民や企業、行政が力を合わせて環境問題に取り組んだことによって環境は改善されていったのです。

まとめ

戦争終結後、公害や大水害を乗り越えて人々の生活は徐々によくなっていきました。

5 これからの北九州市

めあて

これからの北九州市のまちづくりを考えよう。

ここまで、戦前から戦後にかけての人々の暮らしや、わたしたちが住むまちが復興していったこと、公害や水害を乗り越えていったことを学んできました。

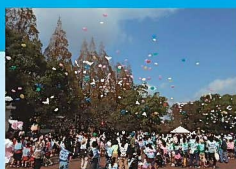
それでは、これからの北九州市について考えていきましょう。



北九州市は、「北九州市非核平和都市宣言」^(※7)を実施し、平和に向けたさまざまな取り組みを進めています。

北九州市の平和に向けた取り組み

原子爆弾による被害の実態や平和の尊さなどを学ぶため、長崎市が主催する青少年ピースフォーラムへの小中学生の派遣や、嘉代子桜・親子桜の植樹に取り組んでいます。



青少年ピースフォーラム

また、戦没者を慰霊するための忠霊塔や慰霊塔の管理や、戦没者追悼式の開催も遺族会と共に行っています。

非核平和都市宣言^(※7)を読んでみましょう。

平和な世界の実現は、人類共通の願いです。

私たちの国、日本は、世界で唯一の核兵器の被爆国として、この地球上で再び広島や長崎の惨禍を繰り返してはならないことを、世界の人々に強く訴え続けてきました。

私たち北九州市民は、長崎に投下された核兵器の第一目標が小倉であったことを重く受け止め、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを、次の世代に伝え、核兵器のない、戦争のない、平和な世界を築いていかなければなりません。

よって、私たちは、命と平和の大切さを深く認識し、核兵器の廃絶と平和な世界の実現のために歩み続けることを誓い、ここに北九州市を非核平和都市とすることを宣言します。

平成22年2月10日 北九州市

みなさんが暮らしている北九州市は、「SDGsの先進都市」として
高い評価を受けているまちです。



エスディー・ジェー・ズ
SDGs = SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
持続可能な 開発 目標



エスディー・ジェー・ズ

SDGsに取り組むことで目指すこと

- ★シビックプライド(まちへの愛着)を高める
- ★市民生活の質を高める
- ★都市ブランド力を高める



北九州市が「SDGsの先進都市」となったのは、みなさんのおじいさんやおばあさんたち、
このまちで暮らすさまざまな人たちが、戦中戦後、公害をはじめいろいろな困難を乗り越え、
克服してきたからなのです。



トピックス

エスディー・ジェー・ズ

SDGs学習

みなさんのまわりには、世界中の人が豊かで幸せに暮らすために、「水を大切に
する」、「ごみを減らす」など取り組めることがたくさんあります。

毎日学校で使っているノートは、どこで誰が生産して、どのようにみなさん
のもとにやってくるのでしょうか。ノートの原料となる森林がどのような状況に
なっているのでしょうか。SDGs学習に取り組むことで、身のまわりのさまざま
なことが世界につながっていると気づくことができます。



これからの北九州市のまちづくりを担うのはみなさんです。

一人ひとりが主役となって、自分にどんなことができるのかを
考えることが大切です。



<写真提供>長崎原爆資料館、米国国立公文書館、「北九州思い出写真館」、北九州市立文書館

地域の歴史を勉強してみよう

平和のまちミュージアムの周辺には北九州市の歴史を知ることができる 곳이たくさんあります。ぜひ、足を運んでみてくださいね。



げんぱくぎ せいしや いれいへい わ きねん ひ 原爆犠牲者慰霊平和祈念碑

この祈念碑は昭和48(1973)年に建立されました。毎年8月9日に原子爆弾により亡くなった方の慰霊と平和を願う式典が開催されています。



手前が原爆犠牲者慰霊平和祈念碑
右奥が長崎の鐘

ながさき かね 長崎の鐘

長崎の鐘は旧浦上天主堂にあったものです。

昭和51(1976)年に長崎市から複製が送られ、その実物は北九州市役所1階市民ホールに展示中です。

◆調べてみてね◆ 「永井隆 博士」

か よ こざくら おや こざくら 嘉代子桜・親子桜

長崎の原子爆弾投下によって亡くなった女学生、林嘉代子さんのお母さんが、慰霊と平和への願いを込めた桜を長崎市立城山小学校に植えました。桜は今でも毎年花を咲かせています。

そして、北九州市でもこの桜に由来する苗木をゆずり受け、「嘉代子桜・親子桜」と名付けて市内の学校に植える活動をしています。

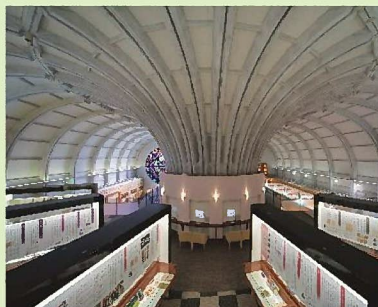


◆調べてみてね◆ 「長崎市立 城山小学校」

北九州市立文学館

北九州には森鷗外、杉田久女、林芙美子、火野葦平、宗左近などゆかりある文学者がおり、現在も、村田喜代子、平野啓一郎をはじめとして多くの作家が多彩な活躍をしています。

文学館では、原稿や手紙など、作家を身近に感じられる資料を多数展示しています。



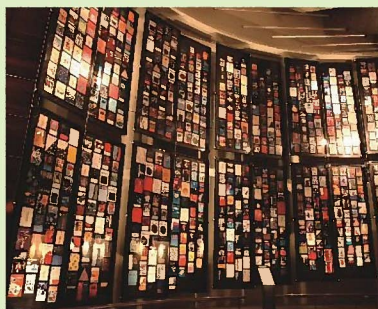
◆調べてみてね◆ 「森鷗外」

北九州市立松本清張記念館

北九州出身の作家、松本清張は数多くの作品を世に送り出してきました。

みなさんも一度は松本清張の作品を目にしたことがあるのではないのでしょうか。

館内には、清張の人と作品について知ることができる展示がたくさんあります。



◆調べてみてね◆ 『或る「小倉日記」伝』

こんなにあるんだね!
全部行ってみたいな!



こくらじょう 小倉城

戦国武将の細川忠興が建てたお城です。

天守閣は江戸時代に起きた火災によって長い間失われていましたが、戦後に復興されました。

館内には小倉の歴史や文化を学べる展示やシアターがあります。

◆調べてみてね◆ 「小倉城の石垣」



こくらじょうていえん 北九州市立小倉城庭園

小倉城庭園は小倉城主・小笠原氏の下屋敷があったところに江戸時代の武家屋敷を復興した施設です。

お茶やマナーの歴史を学べる展示棟があり、池の周囲をめぐることもできます。

◆調べてみてね◆ 「礼法」



ゼンリンミュージアム

16～19世紀にヨーロッパで作られた日本地図や、伊能図をはじめとする国内で作られた地図の変化を通じて、地図の新しい魅力を体験できます。

◆調べてみてね◆ 「伊能忠敬」



TOTOミュージアム

TOTO創立100周年を記念して開設されたミュージアムです。

TOTOの歴史やものづくりへの想いととも、いつもあたり前に使っているトイレやお風呂などの水まわりの歴史についても知ることができます。



◆調べてみよう◆ 「日本の水まわりのうつり変わり」

- 北九州市平和のまちミュージアムを見学した感想や、戦争について思ったことなどを自由に書いてみましょう。



年 月 日

クイズの答え

第1問 答え 戦地から無事に帰ってくるようにという願い。

てっぽう たま
鉄砲の弾にあたらないようにという願い。

(どちらかひとつ答えていれば正解です。)

第2問 答え ちよくせつせんとう
直接戦闘には加わらないが、

しゅうせいへいし
出征兵士をさまざまに支えた国内・国民のこと。

第3問 答え 校庭 か 河原 (1つでも答えていれば正解です。)

あなたは何問正解できましたか？

おわりに

ここまで、北九州市の歴史や、戦時中の人々の暮らしなどについて学んできました。

ぜひ、まわりのお友だちとも戦争や平和についてお話ししたり、
分からないことは北九州市平和のまちミュージアムの展示を見たり、図書館で調べてみたりしてくださいね。

これからもいっしょに平和について考えていきましょう。

北九州市 Kitakyushu City Museum of Peace

平和のまちミュージアム

住所 〒803-0813 北九州市小倉北区城内4番10号

電話 093-592-9300

ホームページ www.kitakyushu-peacemuseum.jp

開館時間 9:30～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週月曜日
(月曜が祝日または振替休日の場合はその翌平日)、
年末年始

観覧料

	一般	中学生・高校生	小学生
個人	200円	100円	50円
団体	160円	80円	40円

※団体は有料のお客様30名以上

※中学生、高校生は生徒手帳または学生証をご提示ください。

※展示エリア内でのご飲食はご遠慮ください。

※展示室内では、携帯電話の電源を切るか、マナーモードに設定してください。

※展示ケースのガラスには手を触れないでください。展示ケースの上に物を置かないでください。

※大きな声での会話はご遠慮ください。

※展示室内では鉛筆のみをご利用ください。

※一部を除いて写真撮影は可能ですが、フラッシュ撮影はご遠慮ください。



北九州市平和のまち
ミュージアム公式アカウント

LINE 公式
アカウント



LINEお友だち登録は こちらから▲